

# Daily Market Report

## ナフサ C&F JAPAN 評価値(ドル/MT)

### C&F JAPAN 評価値

5月後半着	1,035.00	( 42.75)
6月前半着	1,030.50	( 42.75)
6月後半着	1,027.00	( 43.25)
7月前半着	1,024.50	( 43.75)
7月後半着	1,022.38	( 44.13)

### OPEN SPEC NAPHTHA スポット取引プレミアム評価

(千葉到着ベース)	COUNT30日前	COUNT45日前
5月前半着	+8.75	+4.75
5月後半着	+7.25	+4.25
6月前半着	+5.06	+2.75
6月後半着	+3.56	+1.56

### 算出時の原油価格(ドル/bbl)

MONTH	MAY
WTI	108.45
BRENT	122.35

本日午前 10 時時点での理論上の計算値、( )内は前営業日の評価値との比較

### [マーケットコメント]

週明け 11 日のナフサ C&F JAPAN は 1057.25 ドルと続伸、クラックスブレッドは反落。前週末の欧州市場が堅調な動きを見せたことで、アジアマーケットもやや強いムードで始まった。アジアのファンダメンタルズはタイトな状況へと移行し、供給が需要に追いついていないとの見方が強まっている。欧州より玉が流入しないとバランスしない状態にあることから、欧州市場が堅調に推移するとアジア市場も追随する動きとなっている。ただし、ナフサ価格が大きく上昇したことで、高値警戒感が強まっている。クラッカーのマージンは悪化する一方で、クラッカーの減産に対しての不安感が高まっている。プラッツタイムは、売り買いバランスした状態から欧州市場がベアなムードで始まったことを受け、売り手が動意付いてクラックスブレッドは下落した。本日のアジア市場は小動きとなる。欧州市場に一服感が広がって下落したことを受け、売り手優位の展開が想定されるが、一方で根強い買い手も存在することから下げ幅は限定的となる。

## ナフサ MOF / 国産ナフサ価格予想値および評価値

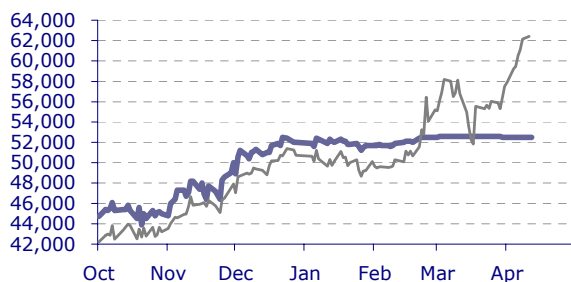
	ナフサMOF価格			速・確報値/(前日比) 円/KL	国産ナフサ価格	
	ドル/MT	予想値/評価値 ドル/円	円/KL		予想値/評価値 円/KL	速報値/(前日比) 円/KL
10-Oct	700.07	83.42	40,587	40,712		
10-Nov	747.36	81.39	42,273	42,222		
10-Dec	796.85	83.61	46,305	46,634		
10-4Q			43,079	43,101	45,100	45,100
11-Jan	857.45	82.91	49,410	49,202		
11-Feb	882.61	82.33	50,505	50,204		
11-Mar	909.37	82.49	52,133	(±0)		
11-1Q			50,513		52,500	(±0)
11-Apr	982.38	82.45	56,292	( 121)		
11-May	1,027.13	84.33	60,199	( 1,859)		
11-Jun	1,035.71	84.34	60,710	( 2,996)		
11-2Q			59,067		61,100	( 1,600)
11-Jul	1,032.39	84.36	60,527	( 3,101)		
11-Aug	1,029.92	84.37	60,394	( 3,141)		
11-Sep	1,027.94	84.39	60,292	( 3,169)		
11-3Q			60,404		62,400	( 3,100)
11-Oct	1,026.22	84.42	60,209	( 3,186)		
11-Nov	1,024.69	84.45	60,139	( 3,200)		
11-Dec	1,023.12	84.48	60,070	( 3,219)		
11-4Q			60,139		62,100	( 3,200)
12-Jan	1,021.33	84.52	59,992	( 3,239)		
12-Feb	1,019.14	84.56	59,895	( 3,255)		
12-Mar	1,016.45	84.61	59,772	( 3,269)		
12-1Q			59,886		61,900	( 3,200)

予想値は太字での表記、MOF(国産)価格の評価値は予想値ではなく本日午前 10 時時点での理論上の計算値(前日比)は前営業日の予想値および評価値との比較、換算比重は 0.695、為替レートは実勢為替相場に基づいた通関レートおよび為替先物マーケットから算出

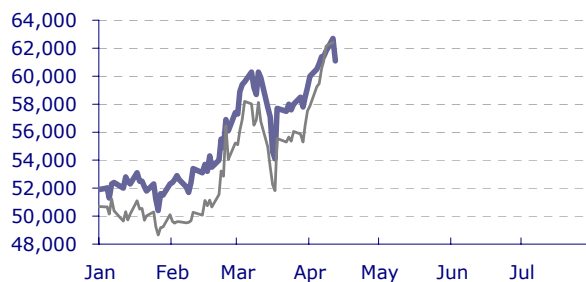
### [ナフサ MOF/国産ナフサ価格予想値および評価値コメント、マーケットコメント]

本日午前 10 時時点の 11 年 1Q 国産ナフサ予想値は 5 万 2500 円と予想値に変更はない。本日より 4 月 MOF は評価値から予想値に変更。本日のナフサ C&F JAPAN 評価値は大幅な下落が想定され、また為替通関レートも大きく円高に振れており、MOF 評価値は期先中心に大きく値を下げるが見込まれる。11 年 2Q 国産ナフサは前営業日比 1600 円高の 6 万 1100 円の評価。

11年1Q国産ナフサ予想値および評価値(円/KL)



11年2Q国産ナフサ予想値および評価値(円/KL)



太線は弊社予想値および評価値の推移、細線はナフサ C&F JAPAN に為替および比重(0.695)を乗じた数値の推移

# Daily Market Report

## 原油・石油製品相場(前営業日)

### Crude Oil(ドル/bbl)

		close	chg
NYMEX / WTI	MAY	109.92	( 2.87)
	JUN	110.57	( 2.80)
ICE / BRENT	MAY	123.98	( 2.67)
	JUN	123.42	( 2.70)

### Oil Products(セント/gal) (ドル/MT)

		close	chg
NYMEX / RBOB	MAY	320.05	( 6.02)
NYMEX / Heating Oil	MAY	325.25	( 6.72)
ICE / Gas OIL	APR	1,050.50	( 2.50)

### (マーケットコメント)

週明け 11 日の原油相場は、ロンドン市場、NY 市場ともに急反落。国際通貨基金(IMF)による日米の経済成長予測の下方修正やリビアの停戦観測を受け、直近の上昇に対する反動から利益確定の動きが進んだ。WTI 期近 5 月限は 110 ドルを割り込み、約 2 年半ぶりの高値から離れた。

IMF は最新の世界経済見通し(WEO)を発表した。景気回復を阻害するほどではないとしたものの、新興国で発生しているインフレ加速や原油価格高騰が世界経済の新たな脅威となっていると指摘している。また、同見通しのなかで、日本の経済成長予想を 1.4%と前回の 1.6%から下方修正、米国についても 2.8%と 3.0%から下方修正した。この引き下げを受け、エネルギー需要の伸び悩みが意識され売りが誘われた。また、リビアの停戦観測も重石となった。アフリカ連合(AU)が内戦の仲介に動いており、カダフィ大佐が停戦に同意したと伝えられたことも圧迫要因となった。直近の急伸により、期近ベースとしては約 2 年半ぶりの高値を付けていたこともあり、その反動から利益確定売りが集まったため、下げ足を速める格好となった。手仕舞い売りが先行するなか、米金融大手ゴールドマン・サックスが、最近の原油価格の上昇を受けて、利益確定売りを推奨したことも売りを誘ったとみられる。

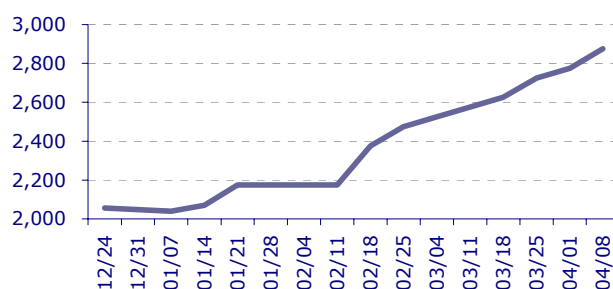
## トピックス

### 「マンスリー・マーケットレビュー = ブタジエン」

アジアのブタジエン市場は大幅続伸。川下誘導品の旺盛な需要、震災による供給障害を背景に、需給引き締まりを懸念した買いが先行した。C&F FE ASIA2900 ドル目前まで上昇し、2008 年 10 月上旬以来の高値を更新している。

3 月上旬に節目の 2500 ドルを上抜いた後も、需給タイト感から強地合いを継続し、右肩上がりの状況にある。中国や韓国で、BR や SBR など合成ゴムの新増設プラントが稼働を開始したことから、原料ブタジエンに対する引き合いが増加した。また、誘導品市況も強含みの展開となり、良好なマージンを背景にコスト見合いからの買いも、マーケットを押し上げる要因となった。アジアのブタジエン価格に割高感が生じ、域外からの玉の流入により需給タイト感が緩和するとの見方もあったが、大震災により日本のブタジエン供給が減少したことで、需給引き締まりへの警戒感は一層と強まった。震災の影響で、日本の川下誘導品プラントの稼働も中断、ブタジエンに対する引き合いは落ち込んだものの、それ以上に供給減少が市場では買い材料視された格好。定修入りしていた JSR 千葉に加え、震災により JX 川崎や三菱化学鹿島のブタジエン生産ラインが停止した。供給減少懸念が強まるなか、時期を同じうして、川上の原油相場やナフサ市況が強含みの動きとなったことで、2700 ドル、2800 ドル台へと一気にレンジを切り上げた。これまでアジア市況に比べ出遅れ感があった中国国内価格についても、急速に値位置を切り上げた。3 月 11 日以降、生産障害に伴い上昇してきたが、ここにきて需給引き締まり感が後退するとの見方が出始めている。定修入りしていたシノベックの広州石化の稼働が再開し、また域外からの輸入も予定されており、供給量は増加することが見込まれる。一方でこれまで旺盛だった需要が減少しており、中国需給はタイト感が解消へと向かう公算が大きい。川上があまりに強い動きをしていること、足元の日本の供給減少などから基調が転換すると判断するのは早計だが、これまでのような右肩上がり一辺倒とは異なり、やや上値が重くなる可能性があり注意が必要である。

C&F FE ASIA(ドル/MT)



### 「アクリル酸、アクリル酸エステル値上げへ = 出光興産」

出光興産は 11 日、アクリル酸、アクリル酸エステルについて価格改定を実施することを明らかにした。価格改定幅はプラス 16 円/kg 以上で、実施時期は 4 月 15 日納入分から。主要原料であるナフサ価格が昨年 10 月から上昇を続け、足元の国産ナフサ価格は 6 万円/KL を上回る見通し。コスト削減努力をしているものの、大幅な原料コスト上昇となっており、価格改定せざるを得ないと判断した。

### 「カザフスタンの PP プラントへ 13 億ドルを投資 = LG 化学」

韓国石化大手 LG 化学は、カザフスタンのポリプロピレン(PP)プラント(生産能力=55 万 1000 トン/年)へ、最高 13 億ドルを投じることを検討している。プラント増設の総投資額は 40 億ドルと見積もられており、この投資により生産能力は 88 万 2000 トン/年へと拡大する見通し。カザフスタン政府は海外大手石油化学会社と提携し、石油化学コンプレックスの建設を進めており、同国エネルギー省は現在、アティラウの西カスピ海行政区にて投資パートナーを探している。その筆頭として、アブダビ政府が 100% 所有する政府系ファンドの国際石油投資会社(IPIC)が挙げられている。

# Daily Market Report

## 「多結晶性シリコン事業に進出 = ハンファグループ」

韓国ハンファグループは11日、グループ企業である化学大手のハンファケミカルが1万トン/年のポリシリコンプラントを建設することを決議した。ハンファケミカルは約1兆ウォンを投入し、2012年初頭に麗水産業団地にポリシリコンプラントを建設、2013年後半からは商業運転に出る予定。ポリシリコン分野の独自の競争力を確保し、ポリシリコンからモジュールまでの太陽光発電事業の垂直系列化を完成させる。ハンファグループは昨年8月、太陽光メーカー大手のソーラーファンパワーホールディングスを買収し、400MW規模のインゴットとウエハーを生産している。また、500MWと900MW規模の太陽電池とモジュールの生産規模を、今年末までにそれぞれ1.3GW、1.5GWに拡大する予定。

## 「インド市場に投資拡大 = ハンツマン」

米国化学大手ハンツマンは、インドの化学市場に積極的に投資し、現地の多国籍企業の需要増に対応する計画がある。10日のウォールストリートジャーナルによると、ハンツマンは今後4-5年以内にインドでの売上の倍増を計画している。インドの化学品市場は90億ドルで、世界市場の4.5%を占めており、今後2-3年以内に400-500人の雇用を創出し、研究開発に1000万ドルを投資する。現在、同社はプロクターアンドガンブル(P&G)などの多国籍企業の需要の増加によりインドに工場を建設し、インドの化学メーカーとの協力のための現地企業4社を買収している。先週には生産能力が6万トン/年のエチレンオキシド(EO)プラントを持つインドの化学メーカーのラファズペトロケミカルを買収が完了している。

## 「2月の韓国中間原料 輸出」

韓国の2011年2月の二塩化エチレン、DOPなどの中間原料輸出統計は以下の通り。

	数量 (mt)	価額 (US\$)	FOB KOREA (US\$/mt)	国別輸出量TOP3	
				国	数量 (mt) FOB KOREA
二塩化エチレン	21,022	10,087,545	480	日本	11,006 485
前月比	△10,517	△5,041,396	▼0	マレーシア	5,009 492
前年同月比	△10,496	△5,520,568	△46	中国	5,007 456
塩化ビニルモノマー	6,557	5,474,231	835	日本	2,504 825
前月比	▼2,097	▼1,760,782	▼1	中国	2,201 850
前年同月比	▼3,827	▼2,682,322	△49	フィリピン	1,853 830
ブタノール	6,533	6,196,757	948	中国	6,533 949
前月比	△6,533	△6,196,623	▼6,496	—	—
前年同月比	▼1,727	△754,680	△290	—	—
オクタノール	10,063	18,150,498	1,804	中国	7,983 1,819
前月比	△2,065	△4,060,192	△42	ベトナム	2,004 1,741
前年同月比	△5,028	△10,712,721	△326	香港	57 1,860
プロピレングリコール	5,876	9,925,257	1,689	米国	1,360 1,595
前月比	△1,057	△2,038,512	△53	中国	843 1,701
前年同月比	△39	△1,830,315	△302	台湾	768 1,628
1,4ブタンジオール	484	1,236,927	2,556	インド	252 2,532
前月比	▼64	▼116,413	△88	中国	164 2,494
前年同月比	▼596	▼491,949	△954	香港	32 2,750
ネオペンチルグリコール	3,137	6,189,541	1,973	中国	2,022 1,976
前月比	▼1,520	▼2,696,103	△65	台湾	282 1,897
前年同月比	▼181	△775,804	△341	タイ	176 1,994
ジエチレングリコール	3,134	4,065,691	1,297	中国	2,799 1,291
前月比	△2,157	△2,771,239	▼28	ベトナム	162 1,296
前年同月比	△1,002	△1,919,320	△290	パングラデッシュ	72 1,250
エピクロロヒドリン	530	1,197,993	2,260	中国	141 2,265
前月比	△7	△92,565	△146	米国	149 2,112
前年同月比	▼940	▼1,161,698	△655	インド	113 2,446
アセトン	7,209	6,416,119	890	中国	4,807 862
前月比	▼2,559	▼1,194,350	△111	インド	1,166 1,014
前年同月比	△1,500	△1,017,171	▼56	タイ	951 833
無水マレイン酸	1,461	2,202,085	1,508	シンガポール	302 1,506
前月比	△515	△782,370	△7	インド	280 1,498
前年同月比	▼42	△352,971	△277	オーストラリア	156 1,495
DOP	16,105	30,584,717	1,899	インド	3,603 1,868
前月比	▼4,134	▼6,788,911	△52	ロシア	1,335 1,932
前年同月比	△4,575	△11,848,707	△274	中国	1,232 1,753
無水フタル酸	13,515	17,157,578	1,269	インド	2,553 1,278
前月比	▼3,324	▼3,613,073	△36	サウジアラビア	2,374 1,331
前年同月比	▼2,743	▼1,713,265	△109	インドネシア	1,534 1,254
カプロラクタム	1,088	3,628,457	3,335	中国	1,088 3,335
前月比	△0	△408,339	△375	—	—
前年同月比	▼1,216	▼1,883,767	△942	—	—

(出所:韓国貿易協会)